

Letter from Tatebayashi Castle Town



館林城の
再建をめざす会

“よみがえる館林城下町”

次号予告

次号(5号)の特集

堅町(たつまち)・紺屋町(こんやちょう)

2021年4月発行予定

城下町を東西に走る主要道の紹介。塚場町に続き堅町と紺屋町・本紺屋町特集。乞うご期待!

編集後記

コロナ禍の2020年、世界をストレスが覆いつくした。そんな空気のなか

7月1日、裏宿出身の同級生が急逝した。社会に大きな貢献をした前澤哲爾氏だ。

映画ロケーション撮影支援組織、[全国フィルムコミッション]を作りあげた。

亡くなる直前に会い、今回の特集、大名小路と裏宿の話をした。

「前澤くんのことを記事にするよ」と約束、読んでもらいたかった……。

令和2年10月吉日 館林城の再建をめざす会・会長 田中茂雄

※前回100円でお買い上げの皆さまへ感謝。寄附もいただきお礼申し上げます! 本誌印刷費に充当しました。 今回もよろしくお願いします。

[定価:100円]

「館林城下町だより」 ~4号~ 特集 大名小路・裏宿

編集:館林城の再建をめざす会

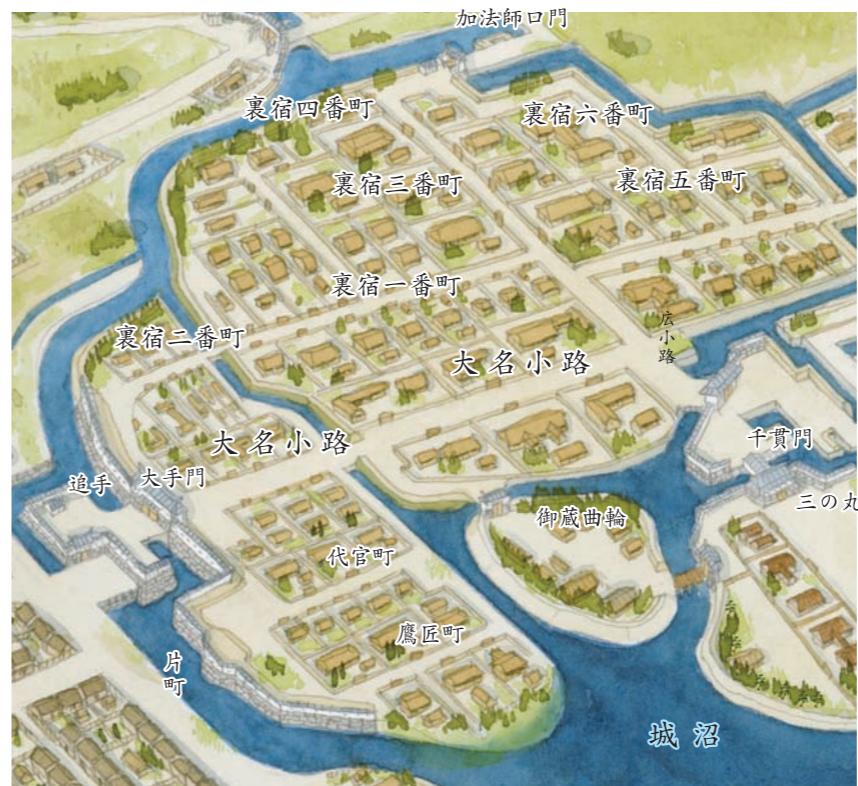
発行日:2020年10月25日

発行者:田中茂雄

発行:昇文館

(祖父が神田表猿樂町にて明治44年創業)

〒374-0037 館林市小桑原町855-1 優風館



館林城下町だより

2020年10月4号

特集:大名小路・裏宿



大名小路の起点、館林城大手門

大名小路・裏宿

Dai myōkōji Uraku juku

これぞ天下に誇れる城下町の証し、**大名小路**。
だいみょうこうじ

かたや控えめな名前の裏宿。隣接するふたつの町の魅力を紹介！
うらじゆく

江戸時代、全国にほんの数カ所しかない町名・大名小路。畏れ多い名称だ！

將軍綱吉の城内だから可能だった大名小路。大手門から続く館林城内のメインストリートである。

大名小路と隣接する侍の町が裏宿。藩を支えた中核の武家が居並ぶ町だ。

現在の大名小路は道幅も江戸時代より狭く、いにしえの面影はない。

裏宿は道も当時のままで侍町の面影を残している。

二つの町は館林城の味わい深いエリアだ。

[大名小路とは]

大手門から東は内伴木に接する
館林城内で最も格の高い武家地である。
道の両側には国守級の屋敷が軒を並べていた。
第五代將軍・綱吉時代の威光を今に伝える
すばらしい名称といえる。
江戸の大名小路と同じ意味を持つ。

[裏宿とは]

決して裏寂れた侍町という意味ではない。
お隣があまりにも際立っていた大名小路
なので、比較して裏と呼ばれたのである。
裏宿は侍町の中心であり町域も広い。

一番町から六番町まであった。

※一説には、榎原以前のちいさな館林城時代
城の北西部に宿(しゆく)があった。
城の裏手だったので裏宿と呼ばれた。



【綱吉時代の絵図を読み解く】

延宝6年(1678)



大名小路に屋敷を構えた国守クラスの綱吉家臣たち

◆杉浦大隅守 ◆黒田信濃守 ◆大久保和泉守

◆宝賀下総守 ◆曾我伊賀守 ※みなさん石高3千石クラス

※他に城代家老の金田遠江守は二の丸に役宅があり、下屋敷は城下／法泉寺付近)

三の丸・二の丸
本丸へ続く→

廊下橋を渡ると千貫門(櫓門)がある。
本丸までは他に3つの橋と門を越える。
広大な城郭であった。

※絵図は綱吉時代の「館林御城図」。読みやすくするための田中茂雄が
再制作。(原本と名前の向きが違う。つまり、門の位置が不明となる)

大名小路

江戸時代、全国有数の城下町であった館林。優れた人物を数多く輩出してきた。今号では大名小路・裏宿にゆかりのある人物をご紹介。

国学者・生田萬(よろず) 大名小路に生まれる。

生田萬は松平齊厚(なりあつ/越智松平館林藩3代藩主)に仕えている。天保8年(1837)『生田萬の乱』で歴史に名を残すことになったが、悲劇的な結末なので残念!

大道寺(谷越町)に父祖の墓が残されている。

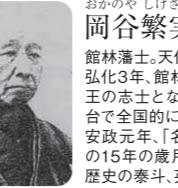
名著『名将言行録』の作者・岡谷繁実(しげざね)、秋元家中で有名な賢女・岡谷喜津の屋敷も大名小路にあった。



いくた よろず
生田 萬 (1801~1837) 37歳
享和元年(1801)、館林藩士・生田信勝の長子として大名小路で生まれる。号(華山)、大中道人、櫻窓など)は多数。性格は勇健、頭脳明晰で文武両道にたけた。詩文に優れ、和歌も得意であった。24歳のとき國学者・平田篤胤(あつね)に入門。才能を認められて塾頭となる。

文政11年(1828)、藩政改革(館林藩借財25万両)の上書「岩にむす苔」が藩主の逆鱗に触れ放逐処分を受ける。家督を弟に譲り謹慎。天保2年(1832)太田宿(新田郡)で私塾を開いた。天保7年、私塾の縁で越後柏崎へ呼ばれ国学を講じた。天保8年、天保の大飢饉により柏崎の領民も困窮。義憲に駆られ同志を集め「奉天命誅国賊」の旗を掲げて蜂起! 代官所を襲撃。しかし大塙平八郎の乱に応じた生田の乱はすぐに鎮圧され、萬は柏崎の海岸で自刃。首は同士が持ち去り行方不明に。

※肖像画は天保8年の素描。37歳の萬。面長で鼻筋が通っていたという。



おかのや しげざね
岡谷繁実 (天保6~大正9年)
館林藩士。天保6年(1835)山形に生まれる。弘化3年、館林(大名小路)へ。文武両道にたけ、勤王の志士となる。館林藩でただひとり幕末の大舞台で全國的に活躍した人物。安政元年、「名将言行録」執筆開始、明治2年までの15年の歳月をかけて完成させた。文豪・森鷗外、歴史の泰斗、英語学者・渡部昇一氏も絶賛。

※図は明治10年代発行の「館林町図」をトレース



三名の芸術家、裏宿に育つ。

ご存じ明治の文豪・田山花袋。

昭和の彫刻界で重鎮の藤野天光。

ミステリアスな天才画家・藤牧義夫!

三名とも裏宿で育った。

しかもほぼピンポイントエリアだ。

アートのパワースポットとして館林の聖地である。

幕末の裏宿で偉人の筆頭は種痘医・長澤理玄。

他に著名人として山田音羽がいる。

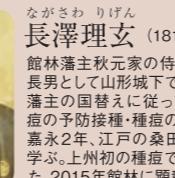
理玄の妻ふさも館林藩で有名な賢夫人だ。

また吉田松陰の学友で館林藩兵学師範である三科文次郎の屋敷も裏宿。

幕末に活躍した人物

長澤理玄 (1815~1863)

館林藩主秋元家の侍医・長澤周玄の長男として山形城下で生まれる。性格は温順孝行貞淑。音曲裁縫を善くし、門に学ぶ者多し。文久3年(1863)理玄が亡くなつた後も男の世話を心を尽くした。美談多く藩主より何度も賞された。明治元年、宇都宮へ移る。享年76



※画像は長澤家の仏壇に飾られた肖像画。

岡谷喜津 (1777~1857・安政4年)

安永6年、岡谷家に生まれる。(山形生まれ)幼名はもと。幼い頃から賢く漢学、論語孟子を暗唱。女子の教育に尽力する。勝規、直幹、瑳磨介、音羽ら俊才を育てる。弘化3年転封により館林へ、住まいは大名小路。館林藩で賢女として名高く、子育ての教育方針を歌にした「いろは短歌」を残す。藩内の家庭訓としてカルタになつた。白蓮院と号した。墓は法輪寺。享年81



数え年6歳と3歳の幼子も覚悟を決めた

山田音羽 (1795~明治10年)

岡谷光廣・喜津夫妻の長女。山形生まれ・幼名は兎巴。弟に瑳磨介、石川直幹いずれも館林藩の逸材。寛政18年山田秀信に嫁ぐ。温良でしかも書画・文学に秀でた。(母・喜津の優れた教育のたまもの)弘化3年、転封により山形からの引越道中日記「お国替給巻」を残す。子孫の山田くん(小3)を空手指導している。すばらしく礼儀の良い少年。血筋だと思う。



まえざわ てつじ
前澤哲爾 (昭和26年6月25日~令和2年7月1日)
裏宿生まれ。東小(三小)、二中、足高、慶大卒。山梨県立大学名譽教授。2001年映画撮影の支援組織「全国FC連絡協議会」を設立。映像・映画の世界で活躍。最後はライフアーティストとして人生を全うした。
※中学以来の友人。館林城の再建をめざす会の応援者でもあった。写真は2017年5月、二中の仲間と出掛けた倉渉・東善寺ツアーやて。冥福を祈る!



たやま かたい
田山花袋 (明治4~昭和5年)
館林藩士・田山鶴十郎次男「録弥(ろくや)」。明治19年まで館林在(14歳)。明治40年「蒲団」、42年「田舎教師」を発表。自然主義文学の方向性を決めた文豪。私小説のルーツとも。ジャーナリストとしても活躍。温泉廻りのレポートも有名。墓は多磨霊園。



ふじの てんこう
藤野天光 (明治36~昭和49年)
本名隆秋。号は舜正→天光。享年72。館林藩剣道師範の家系。東京美術学校(芸大)塑造部を卒業し、北村西望に師事した。昭和4年、帝展に「ときのながれ」で入選。昭和41年、日本芸術院賞を受賞。平成15年遺族により346作品が郷里である館林市に寄贈された。



ふじまきよしお
藤牧義夫 (明治44~昭和10年失踪?)
館林藩士で教育者・藤牧巳之の四男。自宅は裏宿で日用雑貨小売「藤牧分福堂」を営んでいた。昭和8年帝展入選。昭和9年隅田川の風景を描いた大作「白描絵巻」は圧巻。偉大な才能の持ち主。昭和10年9月謎の失踪!(24歳)。超ミステリアス! な芸術家。

今年なくなった友人も裏宿生まれ。日本の映画界に貢献した。



まえざわ てつじ
前澤哲爾 (昭和26年6月25日~令和2年7月1日)
裏宿生まれ。東小(三小)、二中、足高、慶大卒。山梨県立大学名譽教授。2001年映画撮影の支援組織「全国FC連絡協議会」を設立。映像・映画の世界で活躍。最後はライフアーティストとして人生を全うした。

※中学以来の友人。館林城の再建をめざす会の応援者でもあった。写真は2017年5月、二中の仲間と出掛けた倉渉・東善寺ツアーやて。冥福を祈る!

お散歩 マップ

大名小路・裏宿

Daimyōkōji Urajuku



昭和39年(1964)、館林二中へ通う。
通学ルートは鷹匠町→大名小路→裏宿
→当郷(二中)だ。
マップ内の道筋を楽しみながら歩いた。
今と違い昭和の大名小路・裏宿には
個人商店が沢山あった。

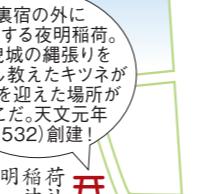
手づくりの金太郎飴屋があった。
手焼き煎餅屋、カメラ屋、電器屋、銭湯、
鍛冶屋、医院(川生さん)、酒屋、乾物屋、
もんじゃ焼屋、駄菓子屋、ふとん屋、
そろばん塾(石橋珠算)もあった。…今は、無い。
ひよこのエサを買い求めた桑原商店も
閉めてしまった。

警察署も消防署もあった町は変わってしまったが
それでも道は昔のままだ。
家が減り寂しくなった分、見通しが良くなった。
歴史の風が流れやすくなっている。
マップを手に散歩しよう。



[教会]館林カトリック教会 大手町11-21

[神社]夜明稻荷神社



裏宿の外に鎮守する夜明稻荷。尾曳城の縄張りを夜通し教えていたキツネが夜明を迎えた場所がここだ。天文元年(1532)創建!

夜明稻荷神社

[居酒屋]炭たか炭



大手町7-36

お散歩

マップ

昭和39年(1964)、館林二中へ通う。
通学ルートは鷹匠町→大名小路→裏宿
→当郷(二中)だ。
マップ内の道筋を楽しみながら歩いた。
今と違い昭和の大名小路・裏宿には
個人商店が沢山あった。

手づくりの金太郎飴屋があった。
手焼き煎餅屋、カメラ屋、電器屋、銭湯、
鍛冶屋、医院(川生さん)、酒屋、乾物屋、
もんじゃ焼屋、駄菓子屋、ふとん屋、
そろばん塾(石橋珠算)もあった。…今は、無い。
ひよこのエサを買い求めた桑原商店も
閉めてしまった。

警察署も消防署もあった町は変わってしまったが
それでも道は昔のままだ。
家が減り寂しくなった分、見通しが良くなった。
歴史の風が流れやすくなっている。
マップを手に散歩しよう。



[城の歴史・発見!] カトリック教会に残る館林城の遺構

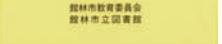
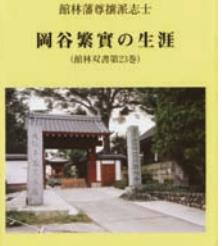
広い敷地に聖堂が道路に対して斜めに建っている。それは館林城内を囲む土居の角度と同じだ。城郭構造を活かした設計の素晴らしいさだ!井上工業はさすがである。平坦な館林で土居と堀の高低差を活かすランドスケープは教会の景観に豊かな表情を与えている。



撮影2020年8月~9月:田中茂雄

コラム
大名小路
①

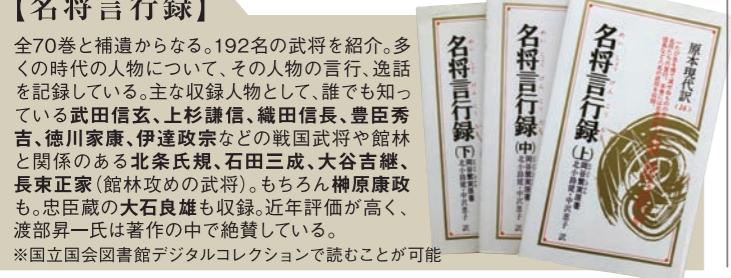
おかのやしげざね
「岡谷繁実」記念館を作りたい!
『名将言行録』は館林活性化の最強コンテンツ!



【名将言行録】

全70巻と補遺からなる。192名の武将を紹介。多くの時代の人物について、その人物の言行、逸話を記録している。主な収録人物として、誰でも知っている武田信玄、上杉謙信、織田信長、豊臣秀吉、徳川家康、伊達政宗などの戦国武将や館林と関係のある北条氏規、石田三成、大谷吉継、長束正家（館林攻めの武将）。もちろん榎原康政も。忠臣蔵の大石良雄も収録。近年評価が高く、渡部昇一氏は著作の中で絶賛している。

*国立国会図書館デジタルコレクションで読むことが可能



コラム
大名小路
②

『大名小路』地名調査。全国に5つ発見!
① 江戸 ② 館林 ③ 唐津 ④ 岩国 ⑤ 仙台



[大名小路]：丸の内エリアにある。丸の内とは丸(曲輪)の意味。壕に囲われた武家地が丸の内。有楽町ビックカメラに面した通りで今も丸の内のメインストリートだ。

格調高く豪華な町名「大名小路」、全国にある大名小路を調べてみた。筆頭は江戸城内（丸の内）にある。松平、細川、山之内、久世…有名諸大名が居並ぶ紛れもない大名小路だ。次に大名小路の資格があるのは館林だ。綱吉時代國守クラスの家臣が屋敷を並べた。將軍の城下町だけに当然だろう。



唐津城も岩国城も模擬天守を建てている、おかげで100城入り。観光客が訪れる。

*国立国会図書館デジタルコレクションで読むことが可能

コラム
裏宿①

長澤理玄が裏宿を歩く
種痘で多くの命を救った理玄は裏宿で暮らした。

理玄は長身でしかも剣術を好んだ。常に朱色の鞘に収めた長剣を帯びていたという。右のイラストのスタイルで裏宿の町を歩いていたのだ。

従来の医者のイメージではない。絵も得意であった。好奇心にとみ、西洋医学の知識を学び、いち早く天然痘の予防接種・牛痘を江戸で学び館林へ持ち帰った。嘉永4年(1851)のことだ。

藩主より金山の地を与えられて病院を建設。多くの命を救った。

館林では理玄の功績を忘れてしまい、私も知らなかった。館林城の歴史を調べる過程で3人の魅力的な人物を知ることになる。岡谷謹磨介、岡谷繁実、長澤理玄だ。

*

2013年、長澤理玄顕彰会を組織し活動を開始した。企画展を開き、多くの賛同を得、2015年に長澤理玄顕彰碑を理玄の病院(金山)を望む地に建立できた。くしくも理玄生誕200年の年であった。顕彰碑だけでなく理玄の功績を次代に伝える活動が大切と考え、小学校での講演活動を始め、教材を自作した。(田中)



授業で使用する理玄・副読本の表紙。
A4サイズ4ページ。全て自費で制作。



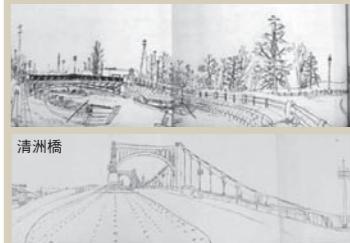
コラム
裏宿②

奇蹟の裏宿三作家。
作品をご紹介!

[田山花袋]



『蒲団』と『田舎教師』はメジャーなので割愛。花袋はジャーナリストとして多くの執筆があり人気を博していた。(売れっ子だった!) 特に温泉ものはオススメ。



[藤牧義夫]
『隅田川絵巻』

全長約50メートルの超大作。実物を見る圧倒される。まさに天才! 館林市第一資料館蔵(常設展示してない)

コラム
裏宿③

製粉文化を伝える
谷津精米所

明治時代に岡野から裏宿に移ってきた谷津精米所。岡野でも精米を営んでいたという。現在は三代目が運営。稼動している製粉機も年代物だ。



レポート①

城下町に残された文化遺産を活用し町の魅力をアップします！

ミニタウン誌『館林城下町だより』創刊3号は誌面倍増!

～鷹匠町特集～5月1日発行(16ページ、1500部制作)。

城下町館林の歴史を伝えるミニタウン誌(年2回発行)。創刊3号は私が生まれ育った鷹匠町。昭和26年生まれなので、昭和30年、40年代の町の歴史をリアルに体験している、南小学校(現二小)の同級生も沢山暮らしていた。

鷹匠町は武家屋敷の佇まいと映画街が同居した活気のある魅力的な町だった。住んでいるときは気がつかなかつたけれど……。
鷹匠町に育てられたおかげで、「館林城の再建をめざす会」の活動が始まった。(田中)



上毛新聞記事 2020年5月28日

企画:館林城の再建をめざす会

レポート

企画：邑楽館林歴史活用研究会

郷土の歴史を活かす活動がパワーアップ!

「邑樂館林歴史活用研究会」 7月25日発足。

日暮飯村月夜

◎具体的には――
学問的歴史探求をめざす研究会で、
眞実・本質を掴み、
と未来への活力。

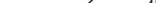
【活動】

の歴史と残されている史
を活かして、邑楽館林地
造成と活性化を目指す。



レポート

館林のこども達を元気にする活動! — 優風館

コロナ禍で活動自粛が続いたがようやく再開できた。
一番喜んでいるのは子供たちだ。  優風館サイ

4月～6月までコロナ対策のため稽を自粛。ようやく7月から本格再開。

新年度の生徒のため、「**入門クラス**（金曜5時～）を新設した。再開してすぐに6名の子供たちとお母さんひとりが入会、楽しく稽古を始めている。

◎体験は無料。稽古開始前に直接道へ。事前の連絡は無用です。詳しくは風館サイトをご覧ください。(田中)



空優会 館林支
優風館
空手道場
館長:田中茂
小桑原町853